

山菜の生産・流通・経営に関する研究(Ⅱ)

— ツ ワ ブ キ —

鹿児島県林業試験場 東中 修

1. はじめに

近年、国民生活の多様化や自然食品への志向から山菜の重要は増加しつつある。そこで行政機関に依頼して山菜の実態調査を行い、そこからツワブキの栽培事例について経営分析を行ったので報告したい。

2. 事例農家の栽培管理・出荷

坊津町の塩屋集落は林産集落振興対策事業を導入して荒畑を4カ年計画で3ha整備してツワブキ栽培をしている。表-1に示すとおり全戸数は78戸あるが、その中で65戸がツワブキ栽培に取り組んでいる。

県内どこの町村も同じように高齢者集落で65才以上が61%となっている。

今回経営調査をしたC氏は、この集落でも比較的若い世代にはいる。家族構成は3人で夫婦が50代、母親が70代となっている。

C氏はツワブキ畑を昭和61年に2a植栽してから徐々に面積を拡大して、平成元年には9.5aに拡大した。栽培を始めて5年目である。

表-1 塩屋集落の人員構成(平成元年)

全戸数	男	女	計
78戸	66人	99人	165人
栽培戸数	男	女	計
65戸	46人	69人	115人
65才以上	28	42	70(61%)

ツワブキは一度植付けると長期にわたり収穫できる。管理に要する労力も少なくすむが、収穫・出荷には多大の労力を必要とする。

C氏の平成元年の栽培管理は表-2に示すとおりである。まず、2~4月は収穫・出荷の時期であるが、これに占める所要労働日数の比率は86%と大半の労力を収穫にさいている。出荷前日収穫した新茎は乾燥しない

ように袋に入れておく。翌日午前4時から12時までに剥皮して坊津町農協の規格によりS・M・Lに分け210gを1束として20束を4kg入りダンボールにつめて、トラックで北九州市場に出荷している。

なお、平成元年は2月と5月に面積拡大のため2aのツワブキの新植を行っている。5~6月は既存の畑の管理作業であるが、古株や病気のツワブキを間引して中耕し、化成肥料、堆肥を施肥している。7月、9月は2回殺菌剤と殺虫剤の混合液を散布し、病虫害の防除に努めている。8月と12月はススキを刈り取り10a当り200束づつ敷草にして畑の乾燥と雑草の発生をおさえている。9月、12月は追肥として化成肥料をそれぞれ40kgづつ施肥した。10月~11月は葉柄を多く発生させるため花茎の除去をしている。

3. 経営分析

表-3はC氏の聞き取り調査及び作業日誌・出荷伝票をもとにして平成元年、2年の10a当りの収益性について計算したものであるが、分析してみると次のような特長がある。

表-2 ツワブキの栽培管理表(10a当り)、C氏、平成元年

月 区分	2~4	2・5	5~6	7・9	8・12	9・12	10~11	1年中	合計
	管理	収穫 出荷	植付	間引 中耕 施肥	農薬 散布	敷草	施肥	花茎 の 除去	除草
所要労働 日数(日)	182.8	4.2	5.0	1.0	8.0	2.0	5.0	5.0	213.0
比率(%)	86	2	2	1	4	1	2	2	100

- (1) ツワブキの生産量は平成元年は620kgとなっているが歩留(70%)を考えると原材料は900kgである。
- (2) 手むきの場合ツワ剥皮に手間を取るため、1日3.5kg程度しか生産できず、労働1日当り所得は1,200

円となっている。しかし、剥皮は屋内でできる軽作業のため高齢者の仕事としては適している。

- (3) 経営規模としては、家族労働力の面からみて現在のツブキでは手むきの場合10aが限度と考える。
- (4) 粗収益の中に占める販売経費の割合は平成元年は23%である。また、所得率は66%と高い。

表-3 ツブキの収益性(10a当り)

項目	元年	2年	備考	
粗収益	386,113円	294,980円	北九州市場	
10a当り収量	620kg	487kg	剥皮後	
kg当り単価	618円	588円		
経営費	種苗	0円	山取り株分け	
	肥料	12,400円	7,110円	堆肥・化成肥料
	農薬	3,700円	6,776円	殺虫剤・殺菌剤
	光熱費	10,000円	6,000円	燃料代ほか
	諸材料	0円	0円	敷き草はススキ使用
	償却費	16,286円	16,286円	耕耘機・刈り払機
	販売経費	89,777円	76,805円	出荷資材・運賃・手数料
	経営費計	132,163円	112,977円	
所得	253,950円	182,003円	粗収益-経営費計	
所得率	66%	62%	所得÷粗収益×100	
所要労働日数	213.0日	155.0日	自家労働力のみ	
労働1日当り所得	1,192円	1,174円	所得÷所要労働日数	

4. 流通及び価格

ツブキの流通は図-1に示すとおりである。鹿児島市場の場合入荷量のほとんどは県内からのものである。出荷者は、生産者自身か業者が主体である。また県経済連の出荷の大半は北九州方面となっている。

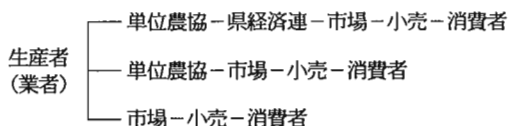


図-1 ツブキの流通図

つぎに市場価格の推移は表-4に示すとおりである。鹿児島市場の6年間の取扱量は54~73tonで推移しており、平均単価はkg当り313~459円である。県経済連からの県外出荷は年々増加しているが、平均単価は605から427円と下降傾向にある。なお、坊津農協は県経済連経由で北九州市場に出荷している。

昭和62年は3ton、63年は8ton、平成元年は9ton共同出荷して約500万円の粗収益を上げている。

5. 将来の見通しと今後の課題

- (1) ツブキは剥皮して生鮮食品として出荷しているが、手作業のため多くの労力を必要としている。そこで、剥皮機の開発と佃煮等の加工食品の開発が必要と思われる。
- (2) 皮剥ししやすいツブキの品種の導入や開発が必要である。
- (3) 本県は温暖でツブキの生育に適しているため、立地条件を生かして早期集荷できる栽培技術体系の確立が必要である。
- (4) 需要が九州管内に限られているので大消費地の関東、関西への需要開拓が必要である。
- (5) ツブキの商品価値がなくなる黒斑病(仮称)の防除法の確立が必要である。

表-4 ツブキの価格推移

区年	年	昭和					平成元
		59	60	61	62	63	
鹿児島市場	kg当り単価	313円	340	356	358	414	459
	入荷量	64ton	69	62	73	64	54
県経済連	kg当り単価	-円	605	542	568	545	427
	出荷量	-ton	1	6	12	18	34
坊津町農協	出荷量	-ton	-	-	3	8	9
	粗収益	-	-	-	-	-	500万円